賛五百九五番
巻五冊

へ13
331
1

曾我門
號 331
巻 1

明治三六年十月十三日
坪内逍遥氏寄贈

序

[illegible]元しらぬ好事の口すさびと睦ぶる孔癖ひろく。其書の面白き類ひ惑しまく。世人の愛ひ玩ぶかよ。結る方もあれど。いみへまを斉諧庖言の系ひ[illegible]

古達の才識を恢ひ。全く愛ひ獨ひたるふあ。今紀ふく。睦ぶるもつの益なるも。ふハ神仏の恵。二ふハ飾若[illegible]

三ツハ因果報應四ツハ忠信篤敬。五ツハ
愛敬貞順。六ツ無別聽力量。七ツハ
智慧才覺。去。此七ツ人ノ道
辨ヘシ。是ノ日北ノ方ヘ矢ヒ
ケ。夜濃ヶ原ヲ厩ヲ
西中北ハ主ノ。宦職ノ友なり
是如代ノ人と友ヲ。寄はゞ
日待月まち。庚申北夜小人支ケ
御ヶ利益ヲ。安祐有ノ
御ヶ道遠ヒ。ヒヒ北しみ
相笑ノ。賛仲業ノ用
ヒヒ中抹唐臭ひ都
北庭ヲ。

萩坊
奥路撰

名題古今說卷之一目錄

生者丸遊魂

并 首山鬼にろかかる

付り くろとりの伝授のる

旅僧丸奇剣

并 下の宮拵女所 拵宴のる

付り 琴丸系統 くゑんじて天上するる

生物丸仙境

并 長年 蓬丸対てのてさるる

付り 仙術よりて入て矢とりひるる

東京大学総合図書館蔵

生者丸遊魂

夫れ人にて人の形ちなれども虚霊ともいふられと
とりとなづむる立文とあり千年以経仙媒性といひ稀なれ
ばかりにて物と英称しうる主人と名付りもられとはくしみ
こまと中ごろ丸て物ごとなりのいづまにおよさそられあり丸ぬ
ゝかさてはいまれこまあるれさ弟りなりおと
ゝるもこれ丸余寿の虎ります みなりの士岩山を東ゞ嬢子寿
さて尾ぜの獄田家よつ人士あり〇ひさく尾丸なり
て古ゝよりゝ紅禄丸年愛れ物自墨へさそくのいと
中丸ひうけ秋毛東ゝ八年ひゆんと依人おく奥
してるよりまたゝの小そでねれさとゝはんつき

なり給ひしとぶみをもて来ふ人ぶ用にて夜
とかさ祝日とつゝてこゝろ路ちりつゝ来ぶ
さ光ゝ日八百天ゝ渡して余慶のこうすくれく祝ごと
あゝそよ吉れ百びすくなくふんせうく猶いとぐみちたり
のゆうぐ百ぶいさど祭ゝと楽つづけるまゝのつゝれ泡かな
なまて行百ぶゆへふろ百ぶをて歩行とゆく百ぶゝけ
百ぶ来ゝとうゝこれも旅人と見へてるよみあとふのりがへとひう
せて百ぶすぐ歩ぐ来ゝく温和して愛たりがゝを百ぶゆさ
ふりでゝ毒門おい付こゝ百ぶうけて百ぶちへをゝゝをゝせゆゝ来ふ
やと向へゝる百ぶひゝて来ぶ出いてゝ百ぶ仕ゝ歩ぐ余宿
れなてへきいゝりのゝりと毒門さいゝひゝれゝもおゆ一更へ
おもひくゝとのなりぐ月ぶ百ぶかゝりふんせ百ぶゝゝとい特ぐと

いへどものまゝるゝつゝれてゆくゆゝ百ぶゝ祝ぐゝくゝ八来ゝ百ぶ
百ぶ百ゆゝのゝぐゝと来ゝゝく特仏明中たゝとゝへどやゝゝさ
ほどぶゆゝなりゝゝゝれぐゝゝ山中の笑百ぶゆゝ差ゆゝゝゝた
まゝゝゝでのゝゝやゝさんとあれべ毒門ゝゝゝゝびゝ学ゝゝつゝを
百仏ぶゆのふゝゝひゝをゝゝゝどゝゝ八去途ふつゝれゝるゝにいおい
つゝぐゝゝゝゝ人百ぶあぐゝ来ゝ百ぶ武仏ふあるゝゝが
いとゝゝふぐゝぐ方ふ一来ゝ百ぶくいゝゝゆゝ百ぶゝゝく余宿ゝまいる
へゝゝと中仏旅人百ぶ来ぐ人ゝゝゝゝ

あんたいふやとそどもこそ不ぜや妹よあとを追かけて行
ゆくりや家内にさりのやしき四どもいくへもせでれば家内
すこしもつと気ふりてだんと上てそれぐ教授ん屋敷へ
ゆりてたまくるのたらふ行れきさいやくしくのひて文をちぐめ

龍のひそまりぬく
あくまの成ハ小地
となりまさに事
斗のきれとなて
僧のゑ中うど丹
すむる神ぬふ
しるの
りれと時
ありて天ふ
よれハ
土と変化
ものゝ
ぐ

毎月年末家族ともあとだ紙かろうれば
ほどふヤにいづれもあいさつの
ありていうすのもの中ありてこのいとのひろいせどれ丹
ひさく古ふろう番つ
雪へをいうぐ
りもの四てもだうけのれだ先月西天漢
ひいたをてる紙ありとさ住のりやをみぎりうちぎや
ひさえれんおばつりのもも乳ばうりとなるらくるいよおよ紙
月てを丹あるれをてそれ
てをあり西英漢の一せへ御田
たりかかいぐもうれて食ど
をとろぬ月家たがいて

先てよりの所望の通りつくかてんゆうの
望意れおてみまよひ事の由やと法脇のさうひとり見まんど
こがらいこうひるそこにかりて其こてこまくまくこれへちり見まく
こもれちやさにこ為つさたどこ居るひふより大名と見へて
のつるこ〳〵仕まつりにて事のつまびつくこれいひちれよう
て長内とゆびさしやさてこいはのいたりこれおのなりわく
いうどてぬけ出方こいふこびくよろふこ武士一人出来りて
かまへいこれさこのこ使みて異形居こ行あひるこれりて
なにこ金ふこんこさそひ出しこるこそひとやこ大名大きふこ
らひこいりて者こ異形居なれどおりくもなう
ぞこなりゆくたこ長内が今こぞ夜あけこば親なるこのこ
告てせんとこさせ彼なりめいまこ命拾ひ居ざる

ゆこれたいこそ所のこの男おこ
こんでうけのりやぞ長内とつて山本の実事こいこり
長内に見れこさ実門の見おこさを長内見れこけど
実門れ下に居て長のこづみのにやれ仕なのども
これぜんで長内まこう者こ居とおこさあこまべ
このくおどろれこそへこみづこるせのこしあひいよ行こび
ありひいおこそれおどろこ長内秀こりの姫事こゆ也べ
おここ長こ長内こ今これけこ者こ行ここ行こ長内の
ゆこんつぞなくこおどもこ長内こ長こ作せあるにより山病
長内こりとこ行こ長内こ作こ仕こおのこ内ぶとこいそ
ざてゆこゆくこ山おゆで山こも仕のこを事こ入れひこすくこ
てこ長内貴に入めりこ行事こそれこおこんで実門こざこ行べ

入ぶ[illegible]の時、夜のひるは紙やもちて四枚又は[illegible]
たてまつらんとおぼしてさぶらふ今夜はすこし病ましまの藤生き
ぶらんまいかめでたしちんちやうてとうぐいかうして長
内うぐぶ[illegible]ぶとさて夜もおけ寅の刻ばかりとまちうの
長兵衛入ゆくふ[illegible]のてひとりて入長兵衛うの細身
妹おもの[illegible]出むひたひ[illegible]長兵衛よ病びあ
ゆかぶり色長内あり次第とう[illegible]あや子
奏[illegible]ちて長内がうつるさふらくるゆまそかたが
とうまはるちびひまれべおのくを[illegible]月て者長のおのひ
とうぬはゆとのちふはは又雪ふ長のりはそにへうばとりふ
をけとのろて人とたぶうかすはしさめく彼ものを
ぶうたふうまんとやけう長内へ高めづしく中月ぶう

もそ尾恐へとをうりふ[illegible]げはぶうもうとけうとぶ

旅僧の考験

雲ゆ[illegible]あ先ほどむ一演史ふ[illegible]人[illegible]紙あを[illegible]旅僧の考験とひ
うゆえんうて今泳山ゆりわうぶ出地ゆう移ぶ天上
ゑこあぶいひつふうゑ遠[illegible]明ゑ人のゆうらのよあ
づ[illegible]ぶうけれゆにあく[illegible]中と病上ぶうゆ法西へ
ぶりかふあう天ど他の鞍や十歳と光ゆの一と也塚ゆ
ふのうても清へぶ万ゆ[illegible]ふある陳ようゆ[illegible]くのくたひ
の人く陸よあうてうんぶりけふふあさのゆうゆりてる
とせめ居ゆう十歳生ゆる紙このくうゆ人たぶこてふが
居ゆりぶうくれくのうてゆ死んうど死てゆき紙ゆうゑ

おとこあとのうはうけんかをあらたらぬ
けうこれるのひちめのまくらさうれば
うるまるこれをしまれば再これ
うるかをのいろのこれをたとえ
あしをのまくれをけるればうるこ
ひとりとねそそそ事れをうこ
うるれあるかたのうのでせばこ
かせばちうくとちぐくたのてきるの三すたうかたうら
のでせべのびすをせばちびも者めかおのうくちぶへやぐて懐中
してやぐすくうるれのうの主へすぐーえぐへゆのーこれ者仏と
沙て出ゆ光のうきこ風めくあのりひうかさうれたものの空こ
うの兵海をとうりがちうるこのもうれ月も奥めうあまたうれ

たゞあんもやのゝ[illegible]いざや漢ふあぐり[illegible]
[illegible]て西ゝ[illegible]なる[illegible]ひ合をうちつまて[illegible]女町[illegible]二人さ[illegible]
[illegible]と見たゝ[illegible]ゆるれたやめをびたゞしひあり〳〵けり
[illegible]さてふはゝ[illegible]ゝ[illegible]ん僧ふ中さく糸竹[illegible]ちにさう
[illegible]ゝ[illegible]へ[illegible]ゝ琴[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

いと紙をうへて十とせ余りを又すれどもくちずとあるはをも
よもぎのうりてさりのきあるはさとおさへしかさ紙
うをを十とせがめさりてあるはけう紙すうーづうこさ出をを紙一
度ふと見ずてかゆとしろ内ふ糸ぬあちちひあげをのび
ちくすんといでしおとゆをさあるおもあーー同般たび傷者が
度のすゑふ度ころびかりけるがけてふ紙見ておさかりさて
こを袈のえびをれよりつひなーーぎらへ彩まの弟孫天上の化
を稼ぐ様いろわ・おばめとあれべ一度いう彩ちをのあとこん
びめと傷いとをよををうーとあるいりをやをんと立てをけ
ひにすーなずぐくろより法衣と出して表ーさうれもちの
あ紙ろふ紙をて立出る人くもあーふーはをてさろに傷ふをちと
あくひををあ・ぐんぬ糸をとへて彩をたふ紙をを文をおがをもすび

天地はかくとらいたをーー通孫こあやうをすけぐうかりてかろ
をちをといをを除よりおーーうしうちつ出をてあをとーーこいざれを
あうをを沖のうふ紙ぐあかるふ十四をうををだうもむちをへをぐを
ゆ紙ろをふうををてをうかれ紙をかりを裏電妄動ーーてあうれ
きーーじうをふる両表の紙ををさすさ毒ーーをいををさ毒ーーを糸ハ
すあいち百すだうりれ彩ーーをへをーてをを紙をうををちのぐう
てををうを紙をけをてうををるあとををれををりて用うげすあう
人をちーーめをてをのをうり彩ーれをる紙おぐをーーゆ和をを表彫
のをくをうをて法ーーかをうりはけうをとををぐうをるををちのーーを紙
こびあををるく

生弱丸仙境

流行せるふうこ病あり霧つゆふむしうがりけるそばの仙のせい
くるものなくていあてよいちこゝろとしいまと霧ふ仙貪乃
名ありて信貴の仙ぬけ神仙ようぞろ奥おあり南胡乃
武陵石和仙者も長年寿ものもの者ゝ家勢のいゝあとゐて
えゝ弘二乙九月九日を過とめ有めやさらいの病こゝそハ
この日ゝ山よのぞと南北の根仙ゝむしゝゆゝ人祝もそよも
山雄にゝりてゝりゆゝ石ゝるもあゝもゞさうれとゐて一就ゝきん
とたゝもひまといそゞ用言せよゝてすぐに寄脚ふ半ゝ仙ゝるゞ
おゝとふ屯井仙とびゆゝ和ゝゝの病仙ゝて長年ゝ矢ゝち
つゞひてゝるゝれゝれバ服ゞの仙つゝぬさすゞて地ふおちんと
せゝゞいゝゞゝるゝけん二月ゞろ上ゝて蟲ゞと初ゝゞ今ゝて矢仙
とひゞゞゝとびゝる長年二の矢とつゞひてゝるゝんとする内

病にかゝるゝけそゝゝにたゝくゞゞ法人ゞゞわゆゝふゆゆかすゝてゝと
くゝりてゞづゝゝもゞくゝ人さりぬこゝ行夕陽とおゝり素月
ともゝゝて年場ふゝゝ仙ゝるものち蘭永年中長年吉地
の里居ゝりゝゝゝ仙ゝそゝもゝまゝる山仙ゝ登ゝて仙ゝの
ずゞゞ喪仙ゝるゝゞけゝゝゆゞゝ家仙ゝおゝゝゞ去ゞゞく
ゝ仙世のおゝひゞせ人と半ゝ培房今仙へゆゞゝたゝくゞゞむ
ゆゝいゞゞ逆ゝゝ和ふのゞれゝるゆんこそゝゝゝゝ
ゆゝゝれ武仙ゝものたのゝゝゞげゝれゆゆもゝくゝゝ仙ゝゝゞし
てゝゝ平の世ゝゝゝしゝとおゝゝゞゝゝゝゝ

ゐさぎせり竹がりおくの深いりまるふ岡のあるかんて
たづのゆくふる岸崎くそびへ中に方二丁もあるべき平地さ
ぢいとつくし榊宮つぶくしくれと出るのたくき花樹ぬれたる
風枝ぐたて苔ろろかふ水みさてろかなり岡いあしもうて
ろのれぐ内ふ人いろへびで岡おふ二三人の老ろちろ松ろひ拾ろ
あり立りてたれ人の位ふあるひいろ業ゆやと岡ば老ろこ
たてしふ山賊ふてろ者岡ふあるぎしあるりのつ口にあるる
あるぶ中にもまぶ城ろ士しゆ美人ぶふ三宮ろ者りのふゆ
おくい彩月十又月ふかるるぐ城らのゆんれば年にそうじ侍清
めいさぐくてきち矣るくとりの岩年うもるぐ宮ふるるら
ふと楠門のまにとぐり矣のかるふれば矣ふ金のるぐと
ろろくけ矣のわかるぐ年ふいろとつる年ぐと出て

元弘二年九月九日とありしあたもれい先ぐ寄ふ
射うけちふさるぬ巳年号月日も後ふ彩岡ふ一貫金せ
しうべ大きふおどろさ老ろふは矣行ふ人ふてふうけおろさろんて
ろこだ老ろが曰これにそされふゆ城ふ士のゆとふろ
あるとれろ士ろ金ろくとしろ城ろ矣ふ行ふ人ふ
四ろたびわるふたぐ今途中ゆてるちにろ矣ふ行ふ
どもいさるも射ふにてうあくぶとは矣のわ〜へ漢ろれ保ふ
れろく南代の勇将懐ふ孫ふ名ふれべおろうとすべ
ろにあるぶ月のころふは矣のわ〜あるはまるぐもれろへ
あるれ〜ろろかけおるれろ矣のわ〜まんとるよ
月ふ日ふ今日ふあるふ彼ろ矣ふ武威ろおるるのふ人ろ
てまつるにろぐひろまくこの矣ろぐと長年にろたふろ

[illegible]

一歌付合用抽語　全部又冊

付合と賞と恋と品とあいまぜのおびただしく抽子
[illegible]
義数と題と男と女と分てもわるくぬしとあ
ちらてしかるべきのハ人のんだうく表

右四月二日の中　[illegible]
[illegible]

天地人の間一切あらゆる事国字分にて
事理詳ふ由来年数年即時に見る書也

博物笈全

全部一冊或七冊

天地日月風雲雪霜の理を説國郡山川来
暦を記し年々長暦并註日和降晴御武鑑
年中行事神社佛閣神秘縁起諸職諸藝流
義始末佛家十宗の起并流派公家武家学
者歌道有職僧尼隠士雅楽申楽茶道能筆
画工都和漢名誉人物妙薬妙術秘傳金石
草木器物等出所異名和漢年号年数等記